第54回 近畿児童養護施設研究協議会 奈良大会 開催要綱

1. 大会テーマ

「現場の力」 ～主体性と責任感を問う～

2. 目的

「事件は会議室で起きてるんじゃない！現場で起きてるんだ！」これは25年ほど前に大ヒットした刑事映画のセリフです。

2017年に発表された「新しい社会的養育ビジョン」以降、現場は動揺し、自分たち（児童養護施設）の存在価値に自信を失いかけながらも、私たちは日々、目の前の子ども達に向き合い続け、社会的養護のセーフティーネットの役割を最前線の**現場**で必死に担っています。

不登校や発達障害、愛着障害、リストカット、精神疾患、親対応など30年前には耳にしなかった単語や横文字も最近では当たり前のように飛び交っていて、状況は刻々と変化していることを一番理解しているのは**現場**の職員です。

今回の近畿児童養護施設研究協議会奈良大会は、「**現場の力**」をテーマにしました。知識や専門性は子育てに当然必要ですが、それ以上に大事なものは「主体性」と「責任感」です。本研究協議会では全体会の他5つのテーマで分科会を設け、様々な視点から「**現場の力**」について研究協議を深めたいと思います。目の前の子ども達だけでなく、家庭で居場所がなく寂しく悲しく感じている子ども達がたくさん居て、そんな子ども達の為に私たち**現場**が勇気を持って「主体性」と「責任感」を見直す大会にしましょう！

3. 主催

近畿児童養護施設協議会

第54回近畿児童養護施設研究協議会 奈良大会 実行委員会

4. 後援（予定）

奈良県 ・ 奈良市

5. 開催期間

令和5年6月15日（木）～16日（金）

6. 会場

◎全体会・分科会会場	<u>なら100年会館</u>	〒630-8121 奈良市三条宮前町 7-1
(TEL) 0742-34-0100
◎交流会・分科会会場	<u>ホテル日航奈良</u>	〒630-8122 奈良市三条本町 8-1
(TEL) 0742-35-8831
◎分科会会場	<u>ピアツツアホテル奈良</u>	〒630-8122 奈良市三条本町 11-20
(TEL) 0742-30-2200

7. 日程

【1日目】 6月15日(木)		
12:30~13:00	受付	
13:00~14:00	開会式 挨拶 <ul style="list-style-type: none"> ・近畿児童養護施設協議会 会長 : 河村 善一 ・奈良県児童養護施設協議会 大会実行委員長 : 岡田 悟 優良職員 表彰式	
14:00~15:00	全体会 「基調講演」 テーマ：児童養護施設という私のおうち 講師：一般社団法人ゆめさぼ 代表理事 田中れいか氏	
15:00~15:30	休憩	
15:30~17:30	分科会 ①	第1分科会 テーマ：“家庭的”の議論から養育のヒントを探る 発題発表・グループワーク
		第2分科会 テーマ：仲間とチームワーク 発題発表・グループワーク
		第3分科会 テーマ：LSW 的視点 発題発表・グループワーク
		第4分科会 テーマ：人材の確保と定着 発題発表・グループワーク
		第5分科会 テーマ：子どもと向き合うということ 発題発表・グループワーク
17:30~18:15	休憩	
18:15~20:15	交流会	

【2日目】 6月16日(金)		
8:45~9:00	受付	
9:00~11:00	分科会 ②	第1分科会 テーマ：“家庭的”の議論から養育のヒントを探る 発題発表・グループワーク
		第2分科会 テーマ：仲間とチームワーク 発題発表・グループワーク
		第3分科会 テーマ：LSW 的視点 発題発表・グループワーク
		第4分科会 テーマ：人材の確保と定着 発題発表・グループワーク
		第5分科会 テーマ：子どもと向き合うということ 発題発表・グループワーク
11:00~11:30	休憩	
11:30~12:15	分科会概要報告 各座長より	
12:15~12:30	閉会式 「次期開催県（神戸市） 挨拶」	

8. 参加費

大会参加費 14,000円 (宿泊費・交流会費別途)

9. 個人情報の取り扱いについて

本大会参加申込書に記載された個人情報は、本大会の運営管理に関する業務以外の目的には使用しません。

10. 問い合わせ

大会の内容・運営に関すること

【大会事務局】 児童養護施設 飛鳥学院 (担当：竹島隆二)

〒633-0053 奈良県桜井市谷480番地

TEL 0744-42-2831 FAX 0744-43-7080

※また、研修案内につきましては近畿児童養護施設協議会 HP (<https://kinyokyo.jp>) から確認できます。

申込等・参加・宿泊・交流会に関すること (受付業務代行)

【参加申込先】 株式会社濱観光サービス (担当：吉田隆宏)

〒633-0001 奈良県桜井市三輪115-1

TEL 0744-45-3515 FAX 0744-45-3988

11. 分科会 テーマ

1	第一分科会
分科会名	「“家庭的”の議論から養育のヒントを探る」 ～施設職員が醸し出す家庭的な養育とは～
概要	「新しい養育ビジョン」において家庭養育優先の理念が示され6年弱が経過した。社会的養護の現場では、里親推進、施設の小規模化、地域分散化が急速に進められている。 施設現場における「家庭的」とはどのような状態の事を指すのか。今回はこの「家庭的」について考えていく。 これまでの議論では、「小規模化、地域分散化」など、形態に焦点を当てられたことも数多く見られた。この分科会では、職員が子どもと生活する中で、いかに“家庭”の匂いを醸し出していくか、どのような暮らしを営むことで子どもたちに“家庭”のイメージを描かせることができるのか等議論し、「家庭的」な養育とは何かを考えていきたい。
座長	大阪府 羽曳野荘 施設長 中條薫氏
発題者①	京都市 つばさ園 主任児童指導員 中尾将也氏
発題者②	奈良県 飛鳥学院 児童指導員 中山祐一氏
助言者	一般社団法人ゆめさぼ 代表理事 田中れいか氏

2	第二分科会
分科会名	「仲間とチームワーク」 ～職員のモチベーションの維持と向上について～
概要	<p>現場で職員のモチベーションを保つことは安易ではない。特に若手職員はそれが顕著である。なぜなら現場においての関わりでは明確な「結果」となるものが見えてこないから正解か不正解かわからない。日々全力でぶつかってくる子ども達の為に、目に見えないゴールに向かって関わり・支援をするのは安易ではない。</p> <p>本分科会では5年目までの若手職員に限定し、若手ならではの悩みや不安、自施設のことについて相談・共有し他施設との交流の中で同じ悩み・支え合う事ができる仲間気づき、自施設をより良くするきっかけにしたい。そして、モチベーションの維持・向上を図る為に、先輩職員の経験談（やりがいを感じたエピソード、失敗談等）を聞き、これからの目標（仕事を続けていく上でのモチベーションアップ）に繋げたい。</p> <p>また、当たり前だが子どもは365日24時間、施設で生活している。しかし職員は基本的に交代制である為、あらゆる場面で「チームワーク」が大切となってくる。仲間の想いについてそれぞれが理解し、それぞれの役割についても理解・把握することが、より良いチーム支援につながると考え、チームの中での自分の役割そして理想とする職員像について考える研修にしたい。</p>
座長	京都府 京都大和の家 施設長 岡本直彦氏
発題者①	和歌山県 紀南学園 児童養護係主任 瀧岡信也氏
発題者②	奈良県 天理養徳院 心理相談員 梶田直志氏
助言者	MSD 株式会社 代表取締役 増田勇樹氏

3	第三分科会
分科会名	「一緒に描こう！私の物語！」 ～ライフストーリーワーク的視点で日々の関わりを豊かにしてみよう～
概要	<p>自分の生い立ちや家族、入所理由などを十分に整理、理解出来ないままの状態していると、自分でもよく分からない不安や寂しさ、イライラ、大人への不信感、自己不全感などに繋がっていき、社会適応や将来の自立に行き詰ってしまうこともある。そこで自分自身を知るツールとしてライフストーリーワーク（LSW）がある。</p> <p>LSWは、大人と一緒に自分のストーリーを整理し過去・現在・未来を繋ぎあわせていくことで、自分自身がかけがえのない大切な存在であることを確認し、未来に向かって強く生きていくことができる支援のツールとして有効と考える。</p> <p>子どもの生い立ちや家族についてどのように触れていくか悩むことや、その必要性に気づかない事もある。しかし、子どもの生い立ちや家族について意識する事、退所後も含めた長期的な視点を持ち関わる事が、今後の支援における意図的な関りを考えるきっかけとなる。</p> <p>本分科会において、ライフストーリーワーク（LSW）のようなツールを通じて子ども達への効果的な支援やアプローチについて考え、幅を広げることを目的としたい。</p>
座長	大阪市 助松寮 施設長 眞邊健一郎氏
発題者①	大阪府 子どもの家 主任 大森啓代氏
発題者②	奈良県 奈良県 LSW 研究会 松本冨加氏（愛染寮 保育士）/岡村悠里氏（大和育成園 心理士）
助言者	元帝塚山大学教授 才村真理氏

4	第四分科会
分科会名	「人材の確保と定着 リクルート戦略を考えろ」 ～人材を人財へと意識転換することでみえてくるもの～
概要	<p>厚生労働省などによる施設スタッフの平均勤続年数は約8年で、児童養護施設における離職者の半数以上が30歳までの若い世代で、新人はもとよりスタッフが中堅として施設運営に携わるまでに約8割が離職するという非常事態であることが示されている。その上、人材の確保においては保育士養成校で施設（障害含む）への就職希望は10%以下であるのが現実である。</p> <p>職員の在職年数が長いことは、働く職員にとっても、生活する子どもにとっても安定性が増す。そのためには職員を定着させる環境・システムを整え、リクルートについてきちんと戦略を練る必要がある。定着に向けてはトレーナー制やOJTのように新任職員に対するソフト面の細かな配慮であったり、産休・育休、育児中の職員の勤務配慮といった組織としての対応が必要であろう。ではリクルートについてはどうだろう。実習生という一番身近なリクルートチャンスを逃してはいないだろうか。実習生を受け入れ、指導していくことはとても労力がかかり、現場が日々手一杯の状況の中で面倒に感じたり、つい雑務処理をさせがちではないだろうか。そうではなく、実習生は「将来の職員としての原石」であり実習はリクルートの機会であるという視点を持つことがこれから大事となってくる。</p> <p>実習指導の意識改革が新任職員指導へも良い影響を与える事が期待できる。本分科会では、近畿圏の養成校ともデスクッションし連携を深め、協働して人材を人財へ変換していく意識改革のきっかけにしたい。</p>
座長	滋賀県 湘南学園 施設長 大久保和久氏
発題者①	神戸市 長田こどもホーム 施設長 王子光仁氏
発題者②	奈良県 愛染寮 主任保育士 中尾智子氏
助言者	園田学園女子大学 教授 原田旬哉氏

5	第5分科会
分科会名	「最前線の現場で子どもと向き合い、権利と向き合うということ」 ～〇〇は会議室で起きてるんじゃない！現場で起きてるんだ！～
概要	<p>2016年の改正児童福祉法では、「児童は子ども権利条約の精神に則り」と権利の主体が明確になった。私たちはこれまで社会的養護のセーフティーネットとして子ども達の安心安全を守り成長をサポートし自立支援を行ってきた。脳科学が発達し、虐待のメカニズムが明らかになり、それに伴い児童養護施設に入所してきている子どもたちの傷つきの深さもより理解がされるようになってきている。</p> <p>しかし、施設現場では子どもたちの表現行動、自傷や暴力、引きこもりや不登校の対応に不備苦慮し、疲弊し、その回復のアプローチを見い出せない所も多いのではないだろうか。子ども達は自らの傷つきを表現行動として、より近い職員にぶつける。「私のこと分かってよ！」と言えない気持ちを自らがされてきたことを再現してくる。</p> <p>権利は誰もが等しく犯されてはいけないものである。生活実践の中で職員が権利擁護に配慮し本当の意味での“子どもと向き合う”とは何かを考え今後の養育に活かせる分科会としたい。</p>
座長	兵庫県 三光塾 施設長 瀧野真継氏
発題者①	堺市 東光学園 総括主任 下笠幸信氏
発題者②	奈良県 奈良県権利擁護を考える会 副代表 菅尾明史氏（愛染寮 主任指導員）
助言者	大阪公立大学 教授 伊藤嘉余子氏

第54回 近畿児童養護施設研究協議会 奈良大会

分科会一覧表

	第一分科会	第二分科会	第三分科会	第四分科会	第五分科会
テーマ	「家庭的」を考える	仲間とチームワーク	ライフストーリーワーク	人材確保・定着	子どもと向き合うということ
内容	要項参照	要項参照	要項参照	要項参照	要項参照
発題①	京都市 つばさ園 主任児童指導員 中尾 将也氏	和歌山県 紀南学園 児童養護係主任 瀧岡 信也氏	大阪府 子どもの家 主任 大森 啓代氏	神戸市 長田こどもホーム 施設長 王子 光仁氏	堺市 東光学園 総括主任 下笠 幸信氏
発題②	飛鳥学院 【中山】	天理養徳院 【梶田】	奈良県 LSW 研究会 【岡村・松本】	愛染寮 【中尾】	奈良県権利擁護 を考える会 【菅尾】
幹事 副幹事	天理養徳院 久保 土本	いかるが園 中川 橋本	愛染寮 末松 丹下	大和育成園 山瀬 弘田	嚶鳴学院 増田 岡本
座長	大阪府 羽曳野荘 施設長 中條 薫氏	京都府 京都大和の家 施設長 岡本 直彦氏	大阪市 助松寮 施設長 眞邊 健一郎氏	滋賀県 湘南学園 施設長 大久保 和久氏	兵庫県 三光塾 施設長 瀧野 真継氏
助言者	一般社団法人 ゆめさぼ代表理事 田中れいか氏	MSD 株式会社 代表取締役 増田勇樹氏	元帝塚山大学教授 才村眞理氏	園田学園女子大学 教授 原田旬哉氏	大阪公立大学 教授 伊藤嘉余子氏
記録	小谷 (天理養徳院)	鈴木 (いかるが園)	仲野 (愛染寮)	林 (大和育成園)	北村 (嚶鳴学院)
会場係	谷口 (天理養徳院)	岡山 (いかるが園)	白井 (愛染寮)	山辺 (大和育成園)	佐藤 (嚶鳴学院)